

企業名： 西武ホールディングス

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

私は西武ホールディングスの思い描く未来像をより理解できる。中期経営計画（2021～2023年度）のスローガンである『「アフターコロナの社会における目指す姿」を見据え、コロナショックを乗り越え、飛躍への道筋をつける。』にはリーマンショックや東日本大震災といった金融危機を乗り越えたことへの自信がうかがえる。また具体的な政策として挙げられている経営改革・デジタル経営・サステナビリティの3本の柱を実行するための試みも現実的である。沢山なされている試みの中で私はアセットライトの取り組みに着目する。具体的には建設事業では西武建設の株式譲渡、ホテル・レジャー事業では保有物件の積極的譲渡や参加企業への集約化、都市交通・沿線事業ではダイヤ改正などを通じた恒常的な固定費低減が行われていることである。しかしただ減量経営を行うだけではなく、ニューノーマルな生活様式にフィットしたサービスを積極的に行うことで業績が飛躍する布石をしっかりと敷いていることがうかがえる。以上の考察を通してわかるように西武ホールディングスは中期経営計画を達成するために具体的で実現可能な施策を行っており、この点においてこの会社の将来像を理解することができる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

私は西武ホールディングスの現在における競争優位性が理解できる。都市交通・沿線事業においては日本最大の経済都市である東京の近郊に長い年月事業を行ってきたことに由来する堅固な顧客の確保に加えて、秩父・川越・飯能など都心部近くの代表的な観光エリアを保有している点で他社と比べた時の強みを持っているといえる。また約120万人のSEIBU PRINCECLUB会員、約10.5万人の埼玉西武ライオンズファンクラブ会員を抱えていることから他事業においても堅固な顧客を確保している。また、西武ホールディングスは各事業における高度な運営ノウハウを持っている。以上の観点から私はこの会社の現在の競争優位性が理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

1. 私は西武ホールディングスの競争優位性に持続性があると理解する。2. この会社の現在の競争優位性が理解できるかで述べたように西武ホールディングスには100年以上にわたって事業を展開してきたことによる多くの既存の顧客や経営ノウハウの保持に加えて、ポストコロナを見据えた設備投資を行うことで新たな顧客を獲得しようとして

いることから競争優位性は揺るがないと予測できる。また西武ホールディングスは自社の設備で発電した電気を自社の施設で消費するといった環境に配慮したサステナブルな試みを行っていることにみられるように、近年注目を当ててようになった ESG 投資に配慮しており、安定的に株式投資を通して資金が調達できると予測される。これらの観点から、西武ホールディングスには競争優位性に持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

もし私が西武ホールディングスで働くことになった場合、自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。西武ホールディングスは人材育成プログラムに加えてダイバーシティ・勤務制度・労働環境といった活躍できる環境づくりがしっかり整備されており、キャリアデザインを定めやすい環境が準備されている。特に私は人材育成プログラムの一環である DX リーダー育成研修プログラムに興味がある。このプログラムは統合報告書によると「DX の知見・スキルを習得することで、新たなサービスにつながるアイデアを生み出せる人材の育成」を目的としているが、今後 AI の知見がさらに重要になると叫ばれている中においてこのプログラムを受講することは非常に有意義であると思われる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

私はこの報告書の良かった点として、西武ホールディングスは衣・食・住・遊といった我々の暮らしを支える根幹を提供する企業であることが理解できる資料であったことである。また不動産事業は例外であるが、都市交通・沿線事業、ホテル・レジャー事業、球団経営などがあげられるその他の事業の売上がほぼほぼ均等になっているデータを出すことで西武ホールディングスは顧客に多角的なサービスを提供していることを主張している点もよかった。しかし、取締役の方々の欄を見ているとやはり老練な方々が目立つように次世代の経営を担う人材の育成に力を入れているのかと疑問に思わざるを得ない。したがって私は、技能を磨くプログラムだけではなく伝統ある西武ホールディングスの将来を担う人材を育成するプログラムが存在すればこの報告書に記載するほうが良いと思うのと同時に、もし存在しないのであればすぐさま開設すべきであると思う。